

自立活動学習指導案

1 日時 平成〇年〇月〇日(〇) 14:10~14:55

2 場所 〇〇学級教室

3 学年 自閉症・情緒障害特別支援学級

第2学年2名、第4学年2名、第5学年1名 計5名

4 単元名 「校外学習へ行こう」

5 単元設定の理由

○ 本学級には、自閉症スペクトラム障害や ADHD など、知的な遅れがほぼない児童 5 名が在籍している。

A児は、以前から乗り物への興味が強く、駅名や路線、乗り継ぎの仕方などに関する知識も高い。日頃から、近所のお店へ一人でおつかいをしたり、自分用の『PASPY(交通系 IC カード)』を使って乗り物に乗ったりと、金銭の取り扱いにも慣れている。昨年度末に特別支援学級で広島駅方面へ校外学習に出かけたときは、後日祖母と一緒に同じコースを回って「ここでバスを降りて、この道を歩いて…」と案内し、新しい場所へ行くことにも意欲的である。しかし、自分の興味があることに関しては積極的に行動することができるが、人から勧められたことをやってみようと行動することはまだ難しい。

B児は、特別支援学級や同学年の友達と過ごすことが好きで、休憩時間や放課後、「今日は〇〇して遊ぼう。」と積極的に人を誘って遊んでいる。また、工作が好きで、友達と一緒に折り紙で飛行機を作ったり紙の剣を作って遊んだりしている。友達や弟思いなところもあり、「これ、欲しいって言っていたからあげる。」と自分の作った作品を友達や弟たちにプレゼントすることもある。しかし、感情の起伏が激しく、気持ちが落ち着かないときには自分のやりたいことを通そうとして、友達の意見を聞くことが難しい。また、友達から「〇〇した方がいいよ。」と注意されたことを、「みんな意地悪してくる。」と受け取ってしまっている。

C児は、特別支援学級で3年間過ごしてきて、様々な面での成長が見られたので、今年度の後期から交流学級で過ごす時間を増やしている。後期の初めは、環境の変化に戸惑い、落ち着かない日々が続いた。交流学級の友達と意見が合わないときに、自分の意見を通そうとすることもあり、その都度出来事を整理してC児の気持ちに寄り添いながら、よりよい行動を考えさせてきた。そのようにいろいろな場面での経験を重ね、徐々に、友達の意見を聞いたり、折り合いをつけたりすることができるようになりつつある。

D児は、何事に対しても積極的であり、特に連合野外活動や連合運動会、交流会や校外学習など、特別支援学級で校外に出かけることにとても意欲的である。自分で行き先や行き方について調べたり、活動内容をもとに何が必要か何に注意すべきかなどを考えたりすることもできる。家

族で出かけることも多く、行ったことのある場所についてよく覚えていて、バスや電車の路線図や地図を読み取ることもできる。しかし、自分のしたいことや思いを伝えたい気持ちが強く、友達の意見を聞いたり譲ったりすることは難しい。

E児は、本学級の中で最年長なので、「学級をまとめるリーダーになってほしい。」と繰り返し伝え、リーダーとしての自覚も芽生えつつある。授業中に態度が良くない友達を注意したり、下学年の友達が困っていたら助けてあげたりする姿も見られるようになった。しかし、模範にならないという意識は薄く、「早くしろや。」と言葉遣いが悪くなったり、話を聞く態度が良くなかったりすることもある。5年生の野外活動に行ったとき、班長の役割を果たそうと張り切っていたが、自分の荷物を片付けていないにも関わらず班の友達に「ちゃんとして。」と注意したことが原因でケンカになった。立派なリーダーとは、自分のことがきちんとできた上で周りの人のことを気にかけることができる人であること、E児は立派なリーダーになれると思っていることを話した。それからは、リーダーとしてふさわしい態度を考えて行動することが増えてきた。

- 個々によって実態は異なるが、共通する課題としてコミュニケーション力不足が挙げられる。そこで、対人関係を円滑にし、集団参加の基礎を培う観点で自立活動の授業を計画的に実施している。

本学級では、毎年年度末に校外学習に行っている。行き先は毎年異なるが、公共交通機関の利用方法や公共施設でのマナーなどについて、体験を通して学ぶことがねらいである。乗り物が好きな児童や公共交通機関の利用方法が身に付いている児童が多く、見通しをもって行動できる。今回の校外学習で行く本通り方面は行ったことがある児童も多いのでイメージしやすく、普段自分たちが見ているテレビ番組を作っている『NHK』を見学するという内容も児童にとって興味が湧きやすい。

今回の校外学習では、約2時間半グループ行動の時間を設ける。いつもは教師が決めた行き先に連れて行かれるという受け身の校外学習になりがちだが、自分たちで行き先を決めることで主体的に活動できると考える。昨年度初めて、自分たちでコースを決める校外学習を行ったときは、4人グループで話し合いながら行き先を決め、当日困ったことがあったときはお店の人などに聞き、無事に4人で協力して校外学習に行けたことに達成感を感じている様子だった。「今年も、校外学習行きますよね?」とずっと楽しみにしている児童もいる。グループで行動するため、自分のやりたいことが全てできるわけではなく、友達の意見を聞きながら折り合いをつけたり譲ったりすることが必要になる。コースを決めるための話し合い活動は、“休憩時間に何をして遊ぶか”など、日常生活でも起こりうる場面での話し合いにも繋がる。

- 指導にあたっては、行き先の写真や地図を見せながら説明し、初めて行く場所でも見通しをもって取り組むことができるようにしたい。

初めに、教師が決めた4人のグループごとに、どんな役割が必要か、誰がどの役割を担当するかを話し合う。自分達で決めた役割を担うことで、全員が主体的に参加し、一人一人の達成感を得ることができるようになりたい。昨年度の校外学習は、昼食場所は指定して昼食後のグループ行動のコースを考えたが、今年度の校外学習は、昼食場所もグループで話し合って決める。食べたいものは一人一人異なり、4人の意見を一つにまとめることは容易ではないが、話し合いを通して人の意見を聞いて考え直すことも必要だと感じるができるようになる。また、校外学習後にそれぞれのグループの当日の様子を発表し合う機会を設ける。『NHK』で体験したニュース番組のように、台本や見せる映像(撮影した写真)などを話し合いで考え、お互いに見合うことで、『NHK』の

見学とも繋がるようにしたい。

単元全体を通して、何度も話し合ったり相談したりする場面を設けることで、徐々に話し合いのスキルが高まることが期待できる。話し合いの場面では極力教師は入らず見守るようにし、自分達で考えて決めることができたと感じることができるようにする。話し合いの中でよい聞き方や話し方ができていたときは、「今の聞き方がいいね!」と即時端的に評価し、話し合いの質が向上するようにしたい。

6 単元の目標

- グループで話し合いをしたり行動したりする場面において、友達と協力して課題を解決することができる。
- 自分の伝えたいことを伝えたり、友達の話を聞いたりしながら、主体的に話し合いに参加することができる。

7 指導計画(13時間扱い)

- 第1次 校外学習に行くことを知り、役割を考える。……………1時間
- 第2次 グループごとに、校外学習当日に回るコースを決める。……3時間
- 第3次 校外学習当日……………終日
- 第4次 グループ報告会のための準備をする。……………2時間(本時1/2)
- 第5次 グループごとに、報告会をする。……………1時間

8 本時の目標

自立活動 2心理的な安定 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
6コミュニケーション(2) 言語の受容と表出に関すること

A児	○グループで何について話し合うのかということを、理解することができる。 ○自分の考えを言ったり、友達の意見を聞いたりすることができる。
B児	○グループで何について話し合うのかということを、理解することができる。 ○話が終わるまで、静かに話を聞くことができる。
C児	○その時々話し合っている内容を、認識することができる。 ○自分の意見を言ったり友達の意見を聞いたりしながら、報告会の内容を考えることができる。
D児	○その時々話し合っている内容を、認識することができる。 ○最後まで友達の話を聞き、疑問に思ったことは話が終わってから尋ねることができる。
E児	○決まっていることと決まっていないことを認識し、次にどうすればよいのかを考えることができる。 ○話し方・聞き方のお手本であることを意識し、報告会の内容を考えることができる。